言葉で伝え合おう

令和３年１月６日
静岡市立南中学校
学校便り　１月号

「新しい学力観 主体的に学習に取り組む態度」　　校長　長尾　剛史

新年明けましておめでとうございます。厳しい社会情勢ではありますが、新年に期待して襟を正す私たちがいます。保護者・地域の皆様、本年も南中学校を、どうぞよろしくお願いたします。年頭の新年集会の機会に、新年のあいさつとして生徒に伝えた内容を記します。

令和３年度は、新しい学習指導要領が完全実施され、小中高大の教育が展開されます。学習指導要領は、全国どの地域で教育を受けても、一定の水準の教育を受けられるようにするため、各学校でカリキュラムを編成する際の基準とするものです。学校が行う全ての教育活動の指導書です。私たちはこれに則り教育計画をたて、行事や授業を行っています。

新指導要領を端的に表すフレーズは、「主体的で 対話的な 深い学び」です。様々な学習課題を自分ごととして捉え、友だちとの意見交換や試行錯誤により、新たな価値を見出していく学びです。この背景には、将来訪れるとされる社会情勢、「society5.0」があります。経験したことのない難題に直面しても、臆することなく挑んでいくタフな人間を育てていくことが、この学びのねらいです。こうした指導の方向性から、学力観：「評価の観点」が大きく変更されることになります。現在の評価の観点は４つですが、来年度からは、次の３つの観点で評価が行われます。①「知識・技能」②「思考力・判断力・表現力」③「主体的に学習に取り組む態度」の３つです。①と②は、これまでの評価に近く馴染みがありますが、大きな変更点は③の「主体的に学習に取り組む態度」です。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価について
Ａ自らの学習に目標を持ち、Ｂ学習の進め方を見直しながら学習を進め、Ｃその過程を評価して新たな学習につなげる。［課題解決に向けた粘り強さと学習を調整する力］

たくさん挙手したり、ノートをきちんととったりする評価ではありません。また、意欲的に粘り強く課題に向かっているだけでは主体的に取り組んだとは捉えられません。自分は何が得意で、何が苦手か、どんな力が足りないのかを自らつかんで、自己目標を設定する。そして学習の途中や学習の終りに、その成果を振り返って次の課題を設定できる。また、自分自身で学習意欲を高く維持するための手立てを考えて行動したり、学習に必要な情報や援助を自ら求めたりして、目標を達成しようとすること。

分かりやすく言えば、「目標を設定して、仲間や先生・専門家の力を借りたり、道具の力を借りたりして何とかする」。もっと言えば、**「ガッツ」で解決方法を見出してやり切ること。**失敗と成功を繰り返しながら目標を達成する。ちなみにこうした学習姿勢は、高等学校のカリキュラムにおいても期待され、社会人になったとき役立つと考えています。イメージとして、松下電器の創始者である松下幸之助氏や、本田技研の本田宗一郎氏などでしょうか。いずれにせよ、**令和の時代にメンタル面が成績に反映されていくのです。主体的に学習に取り組む姿勢で獲得した「知識・技能」。主体的に学習に取り組む姿勢で獲得した「思考力・判断力・表現力」。**当然、学校の授業ではこうした学習が指導計画に位置付けられ、学びに向き合う機会が設けられていきます。実験校の実践では、辞書を片手に英字漫画「ＮＡＲＵＴＯ」を翻訳するという授業があったと聞きます。暗記して覚えるだけの知識や技能から、それらを活用して課題をクリアするための学力への変換です。見たこともない数学の問題を、習った法則や技術を駆使して解き明かしていく。案外楽しいかもしれません。**今年もチャレンジです！**